Akita University

研究報告：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要18(1)：55－63，2010

透析患者の健康管理上の意欲向上につながった看護師のサポート

永　田　美奈加*　　鈴　木　圭　子**

要　　旨

透析を受けている患者の健康管理上の意欲向上につながった看護師のサポートを明らかにすることを目的に，透析を受けている５名の患者を対象に半構造化面接調査を行った．その結果，透析を受ける患者の健康管理上の意欲向上につながる看護師のサポートを表す以下の６カテゴリー【相互交流がもたらす情緒的サポートの体験】，【指導的な関わり】，【信頼できる存在】，【友人のような存在】，【患者と医療者の交流】，【患者同士の交流の促し】が導き出された．患者の意欲を支えていることとして，情緒的な支援が多く挙げられていた．全人的に患者を理解しようとする看護師の姿勢は，患者にとって，時に友人や仲間のような存在として受け止められていた．正確な知識・技術に対する信頼に加え，患者と医療者，患者同士の交流の中での関わりや１人の人間として患者を支える姿勢が健康管理上の意欲向上に重要であることが示された．

Ⅰ．緒　　言

わが国で透析を受けている患者は2008年末で282,622人と過去10年間で約38％増加し[1]，今後もさらに増えていくと指摘されている．

透析を受ける患者は，生涯治療を続ける必要があり，機械や医療者へ依存しなければならないことや日常生活の制限，合併症，失職への不安など様々な葛藤や困難を抱えながら生活している[2]．その中で患者は，水分や食事，シャント管理など日常生活上の自己管理をしていくことを求められ，ストレスフルな状況にある．透析を受ける患者のストレスに関する先行研究では，ストレス認知に影響する要因として，精神健康状態，家族からの支援状況，悪性腫瘍合併の有無，スタッフに対する満足度，導入時の家族への説明内容等様々な要因が報告されている．また，患者は，ストレスから抑うつ状態となることもあるが，病を持って生活することを肯定的に受け入れ，生活に折り合いをつけ，家族の支えにより前向きな姿勢を保っていること[3]や，自己効力感や家族支援を高めることにより自己管理行動の向上がはかられること[4]等，前向きな取り組みについての報告もみられている．

このように患者の自己管理行動に関する支援として，患者の主体性や家族の支援のあり方についての報告は多くみられるが，定期的に透析を受ける患者にとっては，これら患者自身の力や家族支援に加え，医療者によるサポートも重要な位置づけにあるといえる．特に看護師は日常生活上の指導・相談等に至るまで患者に深く関わる機会が多い．そのため，透析に関する自己管理や心理的な関わり等，看護師に期待される役割も大きい．正木[5]は，看護援助の目的として，「人々が〝良い〟方向へ変化することを援助すること」を挙げ，〝良い〟方向とは，より良い健康状態を得ること，より良い状況に向けて行動変容すること，その人が自己の持てる力を最大限発揮できることとしている．看護師には日常の関わりの中で，患者が自分の健康状態や透析に対する思いを把握し，前向きに取り組んでいけるようサポートしていくことが求められている．しかし，透析を受ける患者への看護師のサポートに焦点をあてた研究は少なく，看護師の具体的な関わりの状

＊日本赤十字秋田看護大学
＊＊秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻

Key Words:　透析患者
意欲向上
看護師のサポート

Akita University

況や患者に与える影響については十分に知られていない．

透析を受ける患者にとって自己管理行動を遂行し，治療を継続していくことは生命そのものに関わることである．患者が透析を受ける生活を続けながら自己実現できるようサポートのあり方を検討することは看護において重要であるといえる．そこで，透析を受ける患者の治療や生活への前向きな姿勢や意欲などプラスの影響を与えている看護師のサポートとは，どのようなものかを明らかにするために患者の語りを分析することとした．患者の主観的な思いを知ることは，患者自身が持つ力を今後さらに発揮できるような環境づくりや看護者としてのサポートのあり方を検討することにつながると考える．

本研究では，透析を受けている患者の健康管理上の意欲向上につながる看護師のサポートを明らかにすることを目的とする．

Ⅱ．研究方法

１．調査目的

透析を受ける患者を対象とした半構造化面接により，看護師のどのような関わりが透析を受ける患者の治療や生活への意欲に関連しているかを明らかにする．

＜用語の定義＞

看護師：透析療法を行う外来で勤務する看護師

２．対象と方法

１）調査対象

A 県 B 病院で透析療法を受けている患者のうち，治療や体調を考慮した上で，本研究の目的・方法を説明し，同意が得られた５名

２）調査期間：平成20年８月11日から８月22日

３）調査方法：半構造化面接法

事前にB病院の看護管理者に対し，文書と口頭で研究の主旨と倫理的配慮について説明し，調査への協力及び対象患者の選定について依頼した．この手続きにより面会が可能になった患者に，透析室の管理者より研究者を紹介してもらい，研究者が直接，研究の主旨と方法，倫理的配慮について文書と口頭で説明し，同意が得られた対象に半構造化面接による聞き取り調査を行った．面接時間は１人20分程度の予定で１人につき１回であった．面接時間は体調を考慮し，透析終了後とし，患者に気分不良等の異常がないことを確認してから開始した．プライバシー保護のため個室にて行った．あらかじめ作成した質問項目に沿った内容について聞き，回答内容は本人の承諾を得て IC レコーダーに録音した．録音した内容は，当日中に逐語録に起こした後，消去した．

４）調査内容

看護師のどのような言葉・対応・支援が患者の治療・生活への意欲や前向きな取り組みに影響しているかを明らかにするため，①看護師に支えられていると感じた場面や看護師の具体的な言葉・態度，②看護師のどのような言葉や対応で治療や生活に前向きになれるかという視点で質問した．

５）分析方法

面接内容は対象者の許可を得て，書き留めや録音をし，事後に書き起こしたものをデータとし，Berelson. B の内容分析（Berelson, 1957）[6]を行った．面接内容を録音・記述をもとに逐語録を作成した．面接内容全体を文脈単位とし，主語と述語からなる１文章を記録単位とした．各記録単位を意味内容の類似性に基づき分類し，カテゴリー化した．

分析は研究者の主観による偏りを防ぐため，スーパーヴィジョンを受け，また，１度カテゴリー化した後，一定期間を置き，再度確認を行った．

６）倫理的配慮

対象者に研究の主旨と面接内容・方法，プライバシーの保護，回答の部分的な拒否や中途でも参加を拒否する権利の保障，参加しなくても不利益を生じることはないこと，承諾が得られた場合のみ録音し，録音内容の取り扱いについて文書と口頭で説明を行い，同意書への署名により同意を得た上で行った．録音された音声のデータは厳重に管理すると共に，内容はネットワーク化されていないコンピューターで取り扱い，全てのデータは面接当日中に消去した．

また，透析室の看護師に対して文書及び管理者より，研究の目的・方法，看護師個人の能力を測定する内容ではないことを説明し，了承を得た上で行った．

なお，本研究は，秋田大学医学部研究倫理審査委員会及び，B病院倫理審査委員会による審査を受け，承認された．

Akita University

Ⅲ．結　　果

１．対象者の背景（表１）

対象者は男性３名，女性２名の５名であり，平均年齢は59.0歳であった．全員血液透析を受けている患者であり，平均透析歴は14.4年だった．面接平均時間は34分であった．

録音の許可が得られたのは４名で，許可が得られなかった１名については，面接内容を記述することを承諾していただき，データの信憑性を得るためにその場で内容を本人に確認した．

２．患者の健康管理上の意欲向上につながる看護師のサポート

対象者の面接内容は，75記録単位であり，このうち患者の健康管理上の意欲向上につながる看護師のサポートを具体的に示した65記録単位を分析対象とした．

65記録単位を意味内容の類似性に基づき分類した結果，患者の健康管理上の意欲向上につながる看護師のサポートを表す６カテゴリーが形成された．この６カテゴリーは14のサブカテゴリーから構成された（表２）．

以下，本文中カテゴリーは【　】で，サブカテゴリーは＜　＞で，記録単位は「　」で示す．６カテゴリーのうち記録単位数の多いものから順に結果を論述する．なお，[　] 内は，各カテゴリーを形成した記録単位数を示す．

【１．相互交流がもたらす情緒的サポートの体験】[24記録単位]

５つのサブカテゴリーで構成されていた．＜ケアしてもらっている感覚＞では，「いつも元気？と声をかけてくれること」「手をにぎってくれたり，タッチしてくれること」など，患者と医療者との関係が言語的・非言語的コミュニケーションにより深められ，患者はそれをケアを受けている感覚として受けとめていた．

＜リラックスできる雰囲気＞では，「世間話ができる雰囲気だからリラックスできて続けられている」「冗談や世間話を言ってくれると楽しく透析時間を過ごせて気が楽になる」など，看護師の雰囲気や対応を透析を受ける環境として捉えており，透析を継続するための重要な要素となっていた．

＜がんばりを認めてくれる＞では，「体重増加がない時，頑張ってきましたねと声をかけてくれ，改めて自分はがんばっているんだなと振り返ることができた」「がんばってるねという言葉をかけてくれるとまたがんばろうと思える」など，他者から頑張りを評価されることにより，自分を肯定的に捉えられることを示していた．

＜励ましてくれる＞では，「親しい透析仲間が亡くなり，落ち込んでいるとき，自分の気持ちを酌んで，頑張って生きようと言ってくれ，負けてられない，頑張ろうと思えた」など，落ち込んでいる気持ちを後押ししてくれることが前向きな取り組みへと向かわせてくれたことを示していた．

＜患者の心情を理解してくれる＞では，「患者は皆自分の病気や人生についていろいろ考えており，それを分かろうとしてくれる看護師の言葉・対応に希望をもらっている」など，病者の心を理解しようとする姿勢を持つ看護師は，患者を支える存在となっていることを示していた．

【２．指導的な関わり】[17記録単位]

４つのサブカテゴリーで構成されていた．＜指導時の支持的な態度＞では，「検査データがよくない時，一方的に厳しく指導せず何か変わったことありましたかと話をしてくれること」「食事指導ではダメとは言わず，控えたほうがいいですねと言ってくれるので精神的に余裕が持てる」など，結果に対し否定的な反応を示すのではなく，患者の生活に目を向けた指導が意欲の向上につながることを示していた．

＜個別性のある関わり＞では，「教科書どおりではなくそのときの私に合った言葉で指導してくれること」「検査結果についてパンフレットを用いてアドバイスしてくれたり自分に合わせて説明してくれること」など，個別的な指導は，実践に役立つだけでなく，患者が自分のために考えて行ってくれているという，大切にされている感覚を得るためにも重要であることを示していた．

＜正確な知識に基づいた指導＞では，「鉄とリンのバランス等よく分かった上で説明・指導してくれる」「検査結果と症状をつなげて教えてくれること」など，患者は，検査結果や治療に関することも含めて根拠のある具体的な指導を求めていることを示していた．

＜家族への指導＞では，「家族にも食事指導などの支援をしてくれ自分も家族も助かる」という内容から，

表１　対象者の背景

	性　別	年　齢	透析歴
A 氏	女性	55歳	20年
B 氏	男性	71歳	11年
C 氏	男性	68歳	9ヵ月
D 氏	女性	42歳	５年
E 氏	男性	59歳	35年

Akita University

表２　患者の健康管理上の意欲向上につながる看護師のサポートの具体的内容

カテゴリー	サブカテゴリー	具体的内容
相互交流がもたらす情緒的サポート体験	ケアしてもらっている感覚	・いつも元気？と声をかけてくれる ・手をにぎってくれたり，タッチしてくれること ・病院以外で行き会った時も体調はどうと声をかけられ，自分のことを気にかけてくれ嬉しくなった ・担当以外の看護師もみんなが話しかけてくれること ・親身になって相談に乗ってくれること ・周りの患者が急変した時，びっくりしている気持ちを察してくれ，看護師が声をかけてくれ安心した ・患者が身体的・精神的に苦しいとき，優しい言葉をかけてもらうと元気がでる ・毎朝，家で変わったことがなかったか必ず聞いてくれる ・心配してくれていると感じること ・一生懸命やってくれるとこちらもがんばらなければと思う
	リラックスできる雰囲気	・世間話をしてくれること ・看護師の明るくて親切な雰囲気に気がまぎれる ・冗談や世間話を言ってくれると楽しく透析時間を過ごせて気が楽になる ・世間話ができる雰囲気だからリラックスできて続けられている ・スタッフの優しい対応で落ち着く ・透析室全体の雰囲気がよければ，長い闘病生活にも耐えられる ・何気ない会話により励まされ，勇気付けられ元気が出る
	がんばりを認めてくれる	・体重の増加が少ないときや検査結果がよいと「よくがんばりましたね」と言ってくれること ・がんばってるねという言葉をかけてくれるとまた頑張ろうと思える ・体重増加がない時「頑張ってきたね」と言ってくれ，改めて自分は頑張っているんだと振り返ることができた
	励ましてくれる	・親しい透析仲間が亡くなり，落ち込んでいる時，自分の気持ちを酌んで頑張って生きようと言ってくれ，負けてられない，頑張ろうと思えた ・看護師に「子供のためにもがんばらないとね」と励まされ，何度も助けられた
	患者の心情を理解してくれる	・患者は病気や人生について考えており，それを分かろうとしてくれる看護師の対応に希望をもらっている ・一生治らない病気の患者にとって理解しようとしてくれる看護師の態度がものすごい生きる力になる，死ぬまで世話になるのだから…
指導的な関わり	指導時の支持的な態度	・検査データがよくない時，一方的に厳しく指導せず何か変わったことありましたかと話をしてくれること ・体重増加に対し，１週間かかって戻そうねという言葉 ・リンやカリウムが多いとき前の透析が終わってからの食事内容を詳しく聞いて一緒に振り返ってくれる ・これは食べちゃダメというのではなく「こっちの方が栄養があるのでいいですよ」と一緒に考えてくれる ・体重が増えてしまった時「何を食べてきた？」と気軽に聞いてくれ，必ずフォローの言葉をかけてくれる ・食事指導ではダメとは言わず，「控えた方がいいですね」と言ってくれるので精神的に余裕が持てる ・食事指導時「こうして下さい」という厳しい言い方でなく，「やってみようかな」と思える話をしてくれたとき ・患者にとって食事は本当に楽しみであり，人間は好きな物は食べたいという心理を理解して話してくれる
	個別性のある関わり	・教科書どおりではなくその時の私に合った言葉で指導してくれること ・薬の飲み方を一緒に考えてくれ助かっている ・検査結果についてパンフレットを用いてアドバイスしてくれたり自分に合わせて説明してくれること ・料理の方法まで具体的なアドバイスをしてくれるので，主婦には助かる
	正確な知識に基づいた指導	・鉄とリンのバランスなどよく分かった上で説明・指導してくれる ・薬の飲み方について効用を踏まえて最もよい服用時間を提案してくれる ・検査結果と出ている症状をつなげて教えてくれること ・検査結果を症状と結びつけて説明してくれるので自分のことがわかる
	家族への指導	・家族にも食事指導などの支援をしてくれ自分も家族も助かる
信頼できる存在	医療者の連携	・チームで医療が行われていることを感じたときみんなに支えられているんだなと思う ・患者一人ひとりのノートがあって，患者が心配していることや話したことをメモしてくれている ・風邪をひいたり，体調が悪い時，それを察して担当以外の看護師も大丈夫と心配してくれること ・担当看護師がいないときでも代わりの看護師が挨拶してくれ事前に情報収集してくれていること ・透析導入前医師と共に看護師も説明してくれ，あまり不安なく前向きになれたので感謝している ・担当看護師が不在時は代わりの看護師に連絡が行き届いていて，安心して透析が受けられる
	安心感を与えてくれる存在	・順序を踏んだ正確・安全な処置が信頼感・安心感につながり，看護師の頑張りが自分の励みになる ・透析前・穿刺時・終了後必ず変わりないか聞いてくれる ・地震時すぐに来てくれ「心配ないですよ。透析続けられますよ」と声をかけてくれ安心したと同時に災害時の対応もしっかりしてくれるいう信頼感が強くなった ・無事に透析が受けられることが喜びであり，安全に援助してくれる看護師の存在が支えになっている
	受け持ち看護師がいること	・受け持ち制であり，患者のことをよくみてくれている ・受け持ち看護師が責任を持ってみてくれる ・担当の看護師がいること
友人のような存在	友人のような関係	・子供の成長について一緒に話してくれることで生きる目標ができた ・医療者と患者の関係より，友人のような感覚で接してもらい重圧感から逃れられる ・透析導入時，一緒に子供の話をしてくれ，とても助けられ，透析に来て話をするのが楽しみとなった ・透析導入して間もない頃，受け入れられず引きこもりがちになっていた時，看護師が患者をスキーに誘ってくれ，看護師の気持ちもすごく嬉しかったし，スキーができたことで生きることに積極的になれた ・病気になりショックで人生は終わったと思ったが，看護師がなべっこ等行事を企画し声をかけてくれた
患者と医療者の交流	患者交流会への医療者の参加	・患者交流会で看護師に普段話せないことも言えて，医療者と患者を越え，１人の人間としての関係ができ，透析や生活への意欲が高まった ・患者交流会に看護師などスタッフが参加してくれることで話しやすく支えになり，またがんばろうと思える ・患者交流会に医師・看護師・技士が参加してくれ，仲間として話せることが患者にとって支えになっている ・病院の患者交流会で病気や透析に関する学習会もあり，患者スタッフ共に勉強でき，楽しみである
患者同士の交流の促し	患者同士の仲介	・看護師が同じく透析を受けている患者を紹介してくれたことで，仲間と交流しようという気持ちになれた ・昔は個人情報などなかったので，看護師が新しく入った患者さんや亡くなった患者さんについての情報を教えてくれ，それが患者や家族同士の出会いとなり，励まし合うきっかけを作ってくれた

Akita University

家族を援助の対象として捉えること，また，自己管理をしていくためには家族の存在が重要であることが示されていた．

【３．信頼できる存在】[13記録単位]

３つのサブカテゴリーで構成されていた．＜医療職の連携＞では，「担当看護師が不在時は代わりの看護師に連絡が行き届いていて，安心して透析が受けられる」「チームで医療が行われていることを感じたときみんなに支えられているんだなと思う」など，医療者の連携が安全な透析につながっていると患者自身が認識していることを示していた．

＜安心感を与えてくれる存在＞では，「看護師が透析の順序を踏んで正確に安全に処置してくれることが信頼感・安心感につながり，看護師もしっかりがんばってくれているということが自分の励みになる」など，透析中のトラブルがなく無事に受けられることが重要であり，安全な技術が信頼につながることを示していた．

＜受け持ち看護師がいること＞では，「受け持ち看護師が責任を持ってみてくれる」など，自分のことを担当看護師がよく把握してくれているという思いが信頼につながっていることを示していた．

【４．友人のような存在】[５記録単位]

「医療者と患者の関係より，友人のような感覚で接してもらい重圧感から逃れられる」「透析導入して間もない頃，受け入れられず引きこもりがちになっていたとき，看護師たちが患者をスキーに誘ってくれ，看護師の気持ちもすごくうれしかったし，スキーができたことで生きることに積極的になれた」など，患者の自己実現を支える関係性として，単なる医療者と患者という関係だけではなく１人の人間として，または，透析以外のことも話せる＜友人のような関係＞が示されていた．

【５．患者と医療者の交流】[４記録単位]

「患者の交流会で看護師に普段話せないことも言えるし，医療者と患者を越えた関係ができ，透析や生活への意欲が高まった」「病院の患者交流会の中で病気や透析に関する学習会もあり，患者スタッフ共に勉強でき，それが楽しみとなっている」など，＜患者交流会への医療者の参加＞が，互いの交流を深め，本音を打ち明けたり，共に学ぶという機会を生み出していることが示されていた．

【６．患者同士の交流の促し】[２記録単位]

「看護師が同じく透析を受けている患者を紹介してくれるなど情報をくれたことで，仲間と交流しようという気持ちになれた」など，慢性疾患を抱えながら生活していくために仲間の存在は重要であり，＜患者同士の仲介＞をする役割の必要性が示されていた．

Ⅳ．考　　察

結果で抽出された６つのカテゴリーごとに考察する．

【相互交流がもたらす情緒的サポートの体験】

患者と看護師は，治療を通じて継続する関係を持っており，相互作用により信頼関係を確立していた．正木[5]は，相互作用とは，患者から看護師へ，看護師から患者へ，というような一方通行のみでなく，患者と看護師双方から内的状況を発出したり，受け取ったりし合う相互交流過程を通して双方がともに変化・変容していく過程であると述べている．患者は，その中で得られる情緒的サポートが自分にとって最も支えになっていると感じていた．

患者は，自分が発したメッセージに対する看護師の言語や視線，タッチング，傾聴する姿勢などの非言語的な面も敏感に捉えていた．コミュニケーションは患者と看護師の心地よい関係を構築し，＜ケアをしてもらっている＞というプラスの感情をもたらすために重要な役割を果たしている．鈴木[7]は，care するということは病者の感情的，主観的，内面的な部分に立ち，感じ，援助し，生を支える１人の人間としてそばにいることと述べている．看護師は看護ケアを通して患者の存在を支えることができるようコミュニケーション能力の向上に努める必要がある．

安酸ら[8]は患者教育のための看護実践モデル開発の試みの中で，専門家に備わっている雰囲気 Professional Learning Climate（PLC）の要素の１つとして「リラックスできる空間を創造する」を抽出しているが，これは看護の１つとして重要な位置づけである．＜リラックスできる雰囲気＞により，患者は親しみを感じ，心を開くことや疾患・治療への恐怖・不安を和らげることができる．透析は，週２～３回，数時間を要するため，透析室に滞在する時間も長い．環境は，透析に伴う苦痛を最小限にし，患者が透析や自己管理行動などを継続する意欲を持ち続けていけるよう配慮されるべき重要な要素であると考える．

＜がんばりを認める＞ことは，行動に対する努力を認め，本人にその能力があるということを言葉や態度で支援する言語的説得の１つであり，自己効力感を高

Akita University

めるために重要である．患者が自尊心を保ちながら，自己管理への達成感を味わい，その喜びなどのプラス感情をさらに引き出せるよう看護師は関わり，患者が安心感・満足感を持ち，積極的に問題解決行動に取り組めるよう支援することが必要である．

＜励ます＞ことは，患者が挫折しそうになったり，落ち込んだりという状況において，患者の苦しみや悲しみを受け入れた上で，感情を前向きな方向に転換するために必要な関わりの１つであるといえる．透析を受けていく生活には，様々な困難があり，意志の揺らぎが生じることも考えられる．看護師は冷静に患者が置かれている状況を判断し，重荷になるような励ましではなく，患者が自ら前に進めるよう後押ししたり，勇気を奮い立たせるような言葉かけや態度を示す必要がある．

患者が透析を受けている者としてどのような感情を抱いているか，また，人生についてどのように考えているかなど＜心情を理解してもらえる＞ことが患者を支えていた．これらは，信頼関係が成立していなければ表出されにくく，患者がたとえ言葉で表していたとしても，看護師の感じ取る能力がなければ，理解されないものである．患者の言葉を分かろうとする姿勢が最も大切であり，患者は看護師が自分の感情に関心を向け，受け入れてくれるかどうか察知していると思われる．患者の思いに耳を傾けることは，患者の心の痛みや生きることへの希望を知ることにつながり，患者にとって質の高いケアをしてくれる看護師として認知されることになるといえる．

【指導的な関わり】

看護師が患者の自己管理状況に関して否定する言葉や指示的な態度を示すのではなく，その状況を受け止め，患者の生活全体に目を向け，共に振り返る＜支持的な態度＞で関わることにより，患者は意欲を高めることができていた．正木[9]は，支持的な態度とは，患者を評価しないで，その人の存在そのものの価値を認め，支持する態度を示すこと，また，看護者の積極的傾聴を通して，看護者の受容的態度が患者に伝わり，患者が批判されない中で安心して自己について語っていくことができれば，患者は情緒が安定し，自尊心を回復することができると述べている．このように支持的態度で関わることにより患者の自尊心を保持することが患者の自己管理や治療への意欲向上につながることが示唆された．また，Strauss[10]は，慢性疾患患者は自分自身を調整する方法や食べてはいけない食物，自分に特有な不快感を管理する方法について豊かな知識を持っていると指摘しており，患者が体得している知識や学習する姿勢，自己管理方法を尊重，支持する関わりも重要であるといえる．

＜個別的な指導＞を行うことは，マニュアルどおりではなく，個人としてケアされている感情につながっていると考える．高橋[11]は，患者にとっては，自分になされる治療やケアは，多少の妥協はあっても基本的には，自分のために配慮して欲しいというニーズをもっていると述べている．看護者は患者の意志や反応を確認し，個別性に配慮された援助が行われているか常にアセスメントしていくことが必要であるといえる．

Strauss[10]は，慢性疾患患者は，療養法の技術と，自分に特有な身体反応とのかかわりで生じる現象を良く熟知している，しばしば患者はこれらの身体反応を管理するすぐれた技能を身につけるようになると述べている．しかし，それらを日常生活に効果的に活用するためには，看護師が専門職として持つ実践や経験から得られたエビデンスのある知識や技術による指導が必要といえる．明確な根拠や＜正確な知識に基づいた指導＞は説得性があり，患者は看護師に対し専門家としての信頼感を寄せることにつながり，精神的な支えにも発展すると考える．

また，透析は患者と深い絆でつながっている家族にも多大なる影響を及ぼす．看護者は家族が患者に協力し，適切に対処できるよう援助する必要がある．＜家族への指導＞による効果として，患者の自己管理促進や家族の精神的安定などが挙げられ，透析を継続していくために不可欠なサポートであるといえる．

【信頼できる存在】

患者は自分に関わる医療者の専門性や役割を把握しており，自分にとって意味のある重要な情報がスタッフ間で共有され，継続したケアが行われていることにチームとして高い評価を示していた．ベナー[12]は，一貫性のあるコミュニケーションとチーム構築の機能は，患者の安全と安寧にとってきわめて重要であること，また，患者の状態がすべてのチームメンバーにどのくらいよく理解され共有されているかを感じることの重要性を述べている．＜医療職の連携＞のもと，安全な環境で安心して治療が受けられることが患者の身体的安楽を保ち，透析を受けながら健康な生活を送るための基盤となると考える．

また，ベナー[12]は，看護師は社会の一部である安全措置や患者を危害から守ることをめざした危険監視の実践にも従事しているとし，科学技術を使う環境で患者を危険から守るための方法として，熟練したアセスメント能力と機器を理解した上で巧みに使うことを挙げている．患者は，看護師の正確で安全な援助に対し

Akita University

信頼を感じている．透析中の定期的な観察は，見守られているという感覚や何かあっても対処してもらえるという安全性の保証と＜安心感を与えてくれる存在＞という認識をもたらしているといえる．

＜受け持ち看護師がいること＞により，常に自分のことを把握し，責任を持ってみてくれる人がいるという安心から信頼感へとつながっていると考える．

【友人のような存在】

患者の透析に対する思いや悩み・苦しみなどの様々な感情を察し，生活の中に生きがいを見出せるように関わることもサポートの１つであることが示された．これは，ベヴィスら[13]の自己実現を果たせるような環境づくりを促すことやワトソン[13]の他者を個性をもった個人として扱い，他者の感情を感じ取り，その他大勢とは区別するというケアリングの定義に通じると考えられる．透析を受けている患者として接するだけでなく，そこに１人の人間としての関わりがあることが，大切にされている，気づかいや思いやりを感じることにつながるといえる．また，ノッディングス[13]は，ケアする者の姿勢にケアリングが感じられる時，ケアを受けている者は輝き，強靭になり，自分が何かを施されてるとは感じずに，自分に何かが備わったと感じると述べている．今回の対象の語りでは，看護師が友人のような立場でスキーやなべっこに誘ってくれたり，一緒に子供の話をしてくれたことで，生きることに積極的になれた，楽しみができ前向きになれたという心情の変化が示されていた．疾患・治療に関することのみならず，対象を１人の人間としてとらえ，その人の背景を含めて全人的に理解しようとする姿勢や温かな人間関係を築くよう努める看護師としての関わりが，患者にとって，気負わず接することができ，安らげる＜友人のような関係＞となって受け止められたといえる．そのような患者の受け止め方は，看護師を時には友人や仲間のような身近な存在として認識することにつながったと考えられる．これらの日々の関わりが患者の気持ちを解きほぐし，自分らしさや自己実現への希望を見出すきっかけとなっていたと考える．

【患者と医療者の交流】

患者は医療者との交流を望んでおり，患者と医療者という関係から一歩進んだより深い関わりをプラスと捉えていた．これは，患者としての存在だけでなく，個人としての背景をもった自分を知ってほしいという思いや，透析を通して出会った人間同士の関わりを望んでいることの表れであると思われる．患者と医療者が共に透析のことを学習することは，同じ目標を持って治療に取り組むという仲間の感覚を作り出していると考える．これは，一方的にサポートを受けるのではなく，相互的な関係を示し，その関係も患者の前向きな取り組みに影響を与えているといえる．

【患者同士の交流の促し】

多くの患者は，透析治療を週２～３回受けるため，患者同士が知り合う機会は多いように思われるが，透析による疲労感や時間的な余裕のなさから，他の患者と関わりを持ちにくい現状にある．それでも，患者会に入会し，交流会などの行事に参加している者は，そこでピア・サポートの受容・提供を行っている．しかし，患者会の活動に参加していない者もいる．患者同士が交流を持ち，情報交換したり，お互いに必要なサポートを提供し合うことができるよう，看護師は可能な範囲での仲介を行うことが求められている．

高橋[11]は，慢性疾患患者に対し，医療者からの支援でプラスになったと感じている内容を尋ねた結果，看護師の情緒的な支援，個別的な支持や相談的関わりに対する内容が，身の回りの世話や知識の提供などを上回っていたと報告している．本研究においても患者の前向きな取り組みに影響したものとして情緒的な支援が多く挙げられており，人として，相互交流を行う中での関わりや支える姿勢が健康管理上の意欲向上に重要であることが示された．

看護師は患者のそばにいるとき，患者の気持ちを理解しようとしながらケアしている．患者の思いを察知するには，看護師個人の感受性や人間性が影響し，思いやりをもった行動ができるかが関与すると考える．河口ら[14]は，看護師がもつ価値観，態度などが醸し出す雰囲気は，患者の教育効果を左右していたと報告しており，看護師に備わっている態度が患者に与える影響は大きく，患者の治療や生活への取り組みに対するサポートとして重要であるといえる．

また，看護師は，正確な知識・技術，精神面での支援を行うのは勿論のこと，温かな関心を寄せるコミュニケーションや対応に心がけることで，看護師が対象にとって友人や仲間のように感じられる存在になることも患者を勇気づけ，患者自身が持つ強さや生きる力を引き出すきっかけをつくるために重要であることが示された．患者が透析を継続していけるよう，また，人生に生きがいを見出し，自分らしい生活を送れるよう看護者として，１人の人間として関わることの重要性が示唆された．

Akita University

Ⅴ．結　論

透析を受ける患者の健康管理上の意欲向上につながる看護師のサポートとして，６カテゴリー【相互交流がもたらす情緒的サポートの体験】，【指導的な関わり】，【信頼できる存在】，【友人のような存在】，【患者と医療者の交流】，【患者同士の交流の促し】が導き出された．

Ⅵ．研究の限界と今後の課題

今回の対象者は５名と少なく，得られた結果を一般化することはできない．対象者を増やし，検討を続けることが必要である．また，透析歴や個人の特性等の要因を含め，多方面からの分析を行うことで，より幅広いニーズを把握することができると考える．さらに透析を受ける患者への看護における看護師の認識について検討していくことも必要であると考える．

謝　辞

本研究の面接にご協力いただきました患者様，ならびに面接対象者の紹介と研究協力の遂行にご理解を頂きました透析室看護管理者様に深く感謝申し上げます．

本研究は平成20年度秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻修士論文の一部をまとめたものである．

引用文献

1) 日本透析医学会統計調査委員会：図説わが国の慢性透析医療の現況．日本透析医学会．(オンライン)，入手先 ＜http://docs.jsdt.or.jp/overview/index.html＞(参照2008-12-31)
2) 平松美紀：透析患者および家族の心理．透析看護．第２版，日本腎不全看護学会編集，医学書院，東京，2005，pp284-289
3) 大本眞由美：外来血液透析患者の病いの体験に関する研究．日本赤十字広島看護大学紀要３：103-108，2003
4) 川端京子，石田宣子・他：血液透析患者の自己管理行動および自己効力感に影響を及ぼす因子．日本生理人類学会誌３(3)：89-96，1998
5) 正木治恵：糖尿病看護の実践知―事例からの学びを共有するために―．医学書院，東京，2007，pp7-62
6) 舟島なをみ：質的研究への挑戦．医学書院，東京，2007，pp42-53
7) 鈴木民子：臨床の場におけるガンの意味．がん患者ケアのための心理学．真興交易医書出版部，東京，2000，pp32-40
8) 安酸史子，大池美也子・他，患者教育研究会：患者教育のための「看護実践モデル」開発の試み．患者教育に必要な看護職者の Professional Learning Climate. 看護研究36(3)：225-236，2003
9) 正木治恵：セルフケア理論とその活用．透析看護．第２版，日本腎不全看護学会編集，医学書院，東京，2005，pp167-171
10) ANSELM L. STRAUSS : CHRONIC ILLNESS AND THE QUALITY OF LIFE. 慢性疾患を生きる―ケアとクォリティ・ライフの接点―．南裕子監訳，医学書院，東京，2006，pp170-208
11) 高橋正子：慢性疾患患者の看護の特徴．慢性疾患をもちながら生きる人々へのサポート．南山堂，東京，2000，pp125-141
12) パトリシア・ベナー，パトリシア・フーバー・キリアキディス・他：看護ケアの臨床知―行動しつつ考えること―．井上智子監訳，医学書院，東京，2005，pp453-596
13) E. オリビア・ベヴィス，ジーン・ワトソン：ケアリングカリキュラム―看護教育の新しいパラダイム―．安酸史子監訳，医学書院，東京，1999，pp189-195
14) 河口てる子，患者教育研究会：患者教育のための「看護実践モデル」開発の試み．看護研究36(3)：3-11，2003

Akita University

Support from nurses leading to improvement of dialysis patients' motivation in their health management

Minaka NAGATA* Keiko SUZUKI**

*The Japanese Red Cross Akita College of Nursing
**Akita University Graduate School of Health Sciences

A survey by semi-structured interviews was conducted on 5 patients undergoing dialysis therapy to clarify the support from nurses that leads to improvement of patients' motivation in health management while under dialysis therapy. Subsequently, the following 6 categories emerged as representative of support related to the improvement of patients' motivation : "experience of emotional support based on mutual exchange," "guiding relationship," "trust," "friendship," "interactions between patients and medical personnel," and "encouragement of interactions between patients." Emotional support was often cited as supporting patients' motivation. The attitude of nurses, who try to understand patients holistically, is sometimes perceived by patients as being like that of a friend or peer. In addition to reliance in relation to accurate knowledge and technical skills, involvement in the interaction between patient and medical personnel and between patients themselves and an attitude that supports patients as individual human beings were shown to be important from the standpoint of improving motivation in terms of health management.